琉球病院 Monthly

独立行政法人
国立病院機構　琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.34
2015. October

発行者　琉球病院事務部長
吉永　可公

院　長

福治康秀(ふくじ　やすひで)
1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。
1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。
95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。
日本病院・地域精神医学会理事。

基本理念

この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

新しい認知症ケア「ユマニチュード」

認知症疾患治療病棟看護師：上里　解

認知症の患者ケアで難しいのは、介護抵抗です。食事や更衣・排泄ケアの援助を行なおうとしても、ケア自体を拒否され、ケアを提供するスタッフへ暴言や暴力を伴った抵抗をします。ケアは人間が生きていくために最低限必要なことなので、患者さんの意思に反してケアを行わざるを得ないときもあります。患者さんにとっても、介護者にとってもつらい時間です。この問題は世界中、どこでも直面している共通の課題です。

この問題に正面から取り組み、解決策として提示されたのが「ユマニチュード」という新しい認知症ケアです。フランスのイブ・ゼネストさんとロゼット・マレスコッティーさんが1979年フランス文部省から病院職員教育担当として派遣され、各地の施設職員とケアを共有していく中で「ユマニチュード」が生まれました。ケアの基本は、「人間らしさ」「個人を尊重する」ことを考え方の中心において、ケアの「見る」行為、「話す」行為、「触れる」行為、「立つ」行為の４つの行為を柱としています。援助介入はケア提供者からのケアによってケアを受けた認知症患者が自分を人間だと認識する、人間の尊厳を取り戻していく、援助という行為の中で、人間の尊厳を取り戻していくための人と人の絆を作っていく援助技術です。

日本でも、今年から施設や病院での実践を目指した研修が始まりました。今年、３月から５月にかけて3回（全10日間）の研修（ユマニチュード施設導入準備コース）にスタッフ２名が参加しました。そして、７月29日、30日の2日間、ユマニチュードの実技指導のためにイブ・ゼネスト先生と東京医療センターの本田美和子先生、インストラクター10名、情報処理担当者1名の総勢13名が琉球病院へ来院され、BPSD症状が著明ある方や長期寝たきりで反応が乏しい患者様など4名の方を対象に、ユマニチュードに添った援助を実施しました。援助場面はビデオ撮影し、今後の学習に活かせるようにしています。

ユマニチュードに基づく援助を行ってみて、患者さんの表情がみるみる変わっていくのが印象的でした。全スタッフが、ユマニチュードの技術を使えるようになるために、毎週金曜日に学習会を行っています。ユマニチュードの導入を通して、認知症疾患の患者さんの生活が豊かなものになればと願っています。

診療科

- 一般精神科
- こども心療科
- 物忘れ外来
- アルコール依存症等外来

病床数 406床

精神科病棟	181床
認知症	50床
アルコール	54床
児童思春期ユニット	4床
重症心身障がい	80床
医療観察法	37床

那覇市からのアクセス

●アクセス
路線バス／那覇BS（下り）または名護BS（上り）より沖縄バス「77番名護東線」浜田バス停下車徒歩3分
自 動 車／那覇市から40分
沖縄自動車道道金武インターから名護向け5分

トピックス

行事・出来ごと

●病棟等建替整備の動き
進捗状況　本体工事：請負業者　電気設備　・・・・・・・　(株)九電工
機械設備　・・・・・・・　(株)三建設備工業
建築(第２期)工事・・・　(株)淺沼組
新病棟（第１期工事）完成　・・・・・・・・・　平成27年７月

教育・研修

●第4回琉球病院映画祭　（上映会・講演会）
日時：平成27年10月10日(土)　場所：金武町立中央公民館
上映会　13:00 ～ 14:45　「みんなの学校」　講演会　15:00 ～ 16:30　大空小学校元校長　木村秦子先生

●包括的暴力防止プログラム(CVPPP)トレーナーフォローアップ研修
日時：平成27年10月27日(火)8：30 ～ 17：00　場所：琉球病院研修棟3階研修室　対象：院内・院外職員

地域医療連携室だより

当院には56床の認知症治療病棟と物忘れ外来があります。地域医療連携室を相談窓口として医療機関、包括支援センター、高齢者施設、ご家族からの認知症の方の電話・来所相談を行っています。H27年7月に新病棟が開棟後、すでに3回の病棟見学会を開催させて頂きました。「病棟見学会」では、病棟のご案内だけではなく、併せて認知症勉強会を開催しております。関係機関の皆様や、地域の民生委員様、地域住民の皆様からのご要望があれば、今後も病棟見学会・地域へ出向いての認知症勉強会の開催を積極的に行いたいと考えております。何か、お困りなことがあれば、お気軽に地域医療連携室へご相談下さい。

空床状況　9月30日現在

精神科病棟	認知症	アルコール	児童思春期ユニット
7床	5床	7床	2床

※ 入院予約に関するお問い合わせは地域医療連携室へご相談下さい。

お問い合わせ時間
8:30～17:15（土・日・祝日以外）
TEL：098－968－2133（代）
内線：231・234
FAX：098－968－7370
地域医療連携室直通

〒904－1201　沖縄県国頭郡金武町金武7958－1　代表電話　098－968－2133　地域医療連携室
http://www.hosp.go.jp/～ryukyu1/　ＦＡＸ　098－968－2679　ＦＡＸ　098－968－7370

治療抵抗性精神疾患への医療

クロザピンの治療状況

平成22年2月に1例目のクロザピン（CLZ）治療を開始し、全症例は149例になりました。平成27年8月のCLZ導入は5例でした。ご紹介をいただいたのは4例で、他院入院中で問題行動のため隔離を継続されていたのは3例です。1例はすでに隔離を解除し、2例は時間解放を行い、早期の隔離解除を目指しています。重度の精神症状を持った患者様の病状がCLZ治療により改善しており、退院例も65例を超えています。週に3回の専門外来も行っていますので、治療抵抗性統合失調症の患者様のご紹介をお願いいたします。

m-ECT（修正型電気けいれん療法）の治療状況

当院では、m-ECT（修正型電気けいれん療法）による治療を行っております。平成27年8月の治療実績は4例であり、各症例とも改善傾向が認められております。

こども心療科

＜第4回琉球映画祭のご案内＞

第4回琉球映画祭では、『みんなの学校』を上映します。この映画はすべての子どもに居場所がある学校作りを目指す大阪の公立小学校の取り組みを追ったドキュメンタリーです。他校で不登校だった生徒や特別支援学級在籍の生徒を受け入れ、みんなが同じ教室で一緒に学ぶこと、“みんなが笑顔になる挑戦”は、保護者や子どもに関わる立場にある方だけでなく、地域で子どもたちを見守る大人にぜひ見て頂きたいです。今回、映画上映の後、映画の舞台である大空小学校の開校当時から9年間校長を務められた木村泰子先生にご講演頂く予定です。ぜひご参加下さい。詳細は表面及び当院HPをご確認下さい。＊定員300人に達し次第、入場を締切ります。ご了承ください。＊駐車スペースに限りがあります。当院駐車場をご利用下さい。

認知症医療

認知症も他の病気と同じで、早めの治療が大切です。治療の開始が早ければ、進行を遅らせることが出来るだけでなく、認知症になった患者様が生活していく上で、認知症になったことからくるとまどいや不安が解消されます。

認知症は、患者様自身が今までできていたことが出来なくなる自分と向き合い、今まで知っていたことが分からなくなっていく自分の能力への不安があります。日常生活場面で常に行っている事、例えば食事を例にすると、食べ物を口に運ぶ、咀嚼する、飲み込む、次に食べるものを決める、といったこと一つひとつに神経を集中し、意識して関わらないとできなくなります。今までは簡単にできていた些細な事柄が、大変疲れる大仕事となります。

出来るはずの事が上手く出来ないからイライラするし、虚勢を張ってみたり、出来ない事を隠そうとしてその場を取り繕うような嘘を言ったりします。また、自分が人から頼られ活躍していた時代の自分の役割関係を、今に当てはめて自尊心を保とうともします。これらは認知症によって出来ない事、わからない事が増えていき、今まであった自分というものがなくなっていくような不安感に対するあがきとも言えます。時には元気すぎるように見える患者様も、心の中に大きな不安と恐れ、助けを求めたいがどうして良いかわからない焦りがあります。

病院で行っている認知症の治療には、患者様が毎日を安心して暮らせるようにするための生活の工夫、安心して生活できる環境づくり、ケアの工夫、介護者の負担軽減の工夫といったことも行っています。病院を受診することで、認知症になっても、ご家族や友人・地域の人たちに囲まれて、みんなが楽しく暮らしていく事が出来るようにしていく事が認知症治療の役割だと考えています。早期の治療開始は、介護の大変さを軽減するとともに、皆様方のご家庭に大きな安心感をもたらすことができます。受診を迷っている方は、早めの受診をお勧めします。

重症心身障がい児医療

今回は、当院で対応が増えていることについて。重症心身障がい病棟は、強度行動障害を伴う重度知的障がいをお持ちの方が多くいらっしゃいます。しかし、加齢や疾患状況の変化により、身体機能の衰えが見られる方も少なくありません。作業療法士が介入し、身体リハを実施している利用者もいらっしゃいます。そんな中対応が増えている事柄が、車椅子の作成です。主に身体障害者手帳をお持ちの利用者で、身体の麻痺や拘縮（こうしゅく）がおありの方に関して、出来るだけ個人用の身体にフィットした車椅子を作成していこうと手続きの支援を行っています。補装具業者・市町村の障がい福祉課・院内関係部署など、様々な機関や部署と調整を行い協力を頂きながら作成を進めていますが、車椅子が必要な方全てに最良の物を使って頂く状況には、まだ時間がかかりそうです。ただ今後も対応を継続し、利用者の方々がより良く生活出来るように力を尽くしていきたいです。

アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い『飲酒欲求』を直接和らげてくれる作用があります。当院では8月現在、外来通院の患者様58名、入院中の患者様20名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。当院での実際の効果を判定するための調査を行う予定です。患者様へは、適宜導入を勧めています。断酒が困難な方は、ぜひ外来を受診し相談して下さい。

包括的地域精神医療（ACT）

当院の　訪問看護の活動範囲は広域です。離島以外の北部地域、中部は浦添市までを訪問範囲としています。訪問対象者は、精神疾患がある患者様になりますが、医療観察法通院対象者、治療抵抗性統合失調症に有効なクロザピン内服者の患者・家族指導等を継続的に行うためにも原則訪問看護の導入をしています。地域で安定したした生活が継続できるために、病状の安定はもちろんですが、地域や家庭で「したいことを見つけたい」を探しながら、より充実した生活を目指して日々訪問活動を行なっています。

臨床研究部活動状況

「アルコールリハビリテーションプログラムにおけるストレスマネジメント」　作業療法士　當山良徳

当院のアルコールリハビリテーションプログラムでは、ストレスと上手に付き合えることを目的にストレスマネジメントを実施しております。プログラムを実施し、一定の効果を得られたので報告します。プログラムは週1回90分、集団実施しており、プログラムはリラクゼーション→個別ワーク→グループワークの順に展開します。その結果、グループワークで参加者から「いろいろ意見は出たが、〇〇さんの意見は参考にしたい」「青信号に近づけるように頑張りたい」「金銭面がストレスになっていることが分かった」「他の人も同じように感じているので安心した」など意見が出ました。このような結果の考察として、グループワークを用いたことで相互作用が生じて集団凝集性を高めることにつながったこと、意見を聞くことで自分の傾向やストレス対処法に気付けるようになったことなどが考えらました。一方、日常生活への般化という部分までは十分できていないと考えられました。また、今後の課題として、プログラムで学んだことが日常場面で活用されているのか評価が必要なこと、プログラムの有効性について評価尺度を用いて調査する必要があることがあげられました。

〒904－1201　沖縄県国頭郡金武町金武7958－1　代表電話　098－968－2133　地域医療連携室
http://www.hosp.go.jp/～ryukyu1/　ＦＡＸ　098－968－2679　ＦＡＸ　098－968－7370